SAP.C-S4CPB-2602.v2026-11-24.q7

試験コード:	C-S4CPB-2602
試験名称:	SAP Certified - Implementation Consultant - SAP S/4HANA Cloud Public Edition (C_S4CPB_2602)
認定資格:	SAP
無料問題数:	7
バージョン:	v2026-11-24
アクセス数:	118
ページビュー数:	70
https://www.jpnpdf.com/SAP.C-S4CPB-2602.v2026-11-24.q7-mondaishu.html	

最新問題: **1**
シミュレーション
制限付きのカスタムビジネスロールを作成する
ビジネスシナリオ：
エンドユーザーがコア業務を遂行するために必要な最小限のアクセス権限のみを持つように、制限付きのカスタムビジネスロールを作成しています。エンドユーザーは米国を拠点とするプロジェクトマネージャーです。彼らは米国で行われているプロジェクトの作成、編集、およびアクセスのみを許可する必要があります。米国以外のリソースに人員を配置することはできません。ヘルプの書き込み、読み取り、および値へのアクセスは、関連するすべてのフィールドで米国のみに制限する必要があります。
前提条件：
注：以下のタスクでは、###### を必ずグループ番号の下6桁に置き換えてください。
注 :タスクに記載されている名前、値、スペースを正確に使用してください。スペースや数字を一つでも忘れると、タスクの検証が失敗し、不正解と判定されます。
タスク：
米国/1710向けに、以下のフィールドを制限してください。その他のフィールドはすべて 「未管理」とマークしてください。完了したらロールを保存してください。

Restriction Name	Restriction Type	Restriction Value
Bank Country/Region Key	Read, Value Help	US
Bank Country/Region Key	Value Help	US
Company Code	Write, Read, Value Help	1710
Company Code	Read, Value Help	1710
Purchasing Organization	Write, Read, Value Help	1710
Purchasing Organization	Read, Value Help	1710
Purchasing Organization	Value Help	1710
Valuation Area	Read, Value Help	1710
Valuation Area	Value Help	1710

Jpmpdf.com

Answer:

すべての解決策については、以下の説明を参照してください。

Explanation:

タスク 7: US / 1710 のカスタム ビジネス ロールを制限し、他のすべてのフィールドを未保守としてマークする 目的 このタスクの目的は、前のタスクで作成したカスタム ビジネス ロールの制限値を維持し、プロジェクト マネージャーが米国での作業に必要な最小限のアクセスのみを持つようにすることです。

このタスクは、テンプレートから作成されたカスタムビジネスロールに対して実行されます。

テンプレートロール: SAP_BR_PROJECT_MANAGER_PROF

カスタムロールの例パターン: BR_PROJECT_MANAGER_PROF_US_######

このタスクでは、以下のことが求められます。

リストされた制限フィールドのみを維持する、

米国と1710年の正確な必要値を入力してください。

他のすべての制限フィールドを 朱設定」に設定します。

そして、その役割を保存します。

ビジネスシナリオの説明

この制限設定こそが、新しいカスタムロールを安全かつ目的に適したものにしているのです。

ビジネス要件では、エンドユーザーは以下のことを行う必要があるとされています。

米国を拠点とするプロジェクトマネージャーであり、

関連する米国のプロジェクトデータのみにアクセスすべきである。

意図された範囲外で人員を配置したり作業したりしてはならない。

許可された組織の範囲内のデータのみを閲覧および管理するべきである。

これは、役割を以下のように限定することによって実現されます。

米国（国関連分野）
1710 企業/組織分野
不要なアクセスが残らないように、その他の項目はすべて 〆ンテナンスしない」設定にする必要があります。
重要な注意事項
の部分を、あなたのグループ番号の下6桁に置き換えてください。
表示されている値をそのまま使用してください。
表に記載されている項目のみを維持してください。
その他の制限フィールドはすべて 朱設定」に設定してください。
制限期間中は、無関係な項目を空欄にしないでください。
制限付き」＋空白は通常間違いです。
〆ンテナンス対象外」は、関連性のないすべてのフィールドに対して適切な設定です。
必須制限値
タスクのスクリーンショットに示されているとおりに、以下の値をそのまま使用してください。

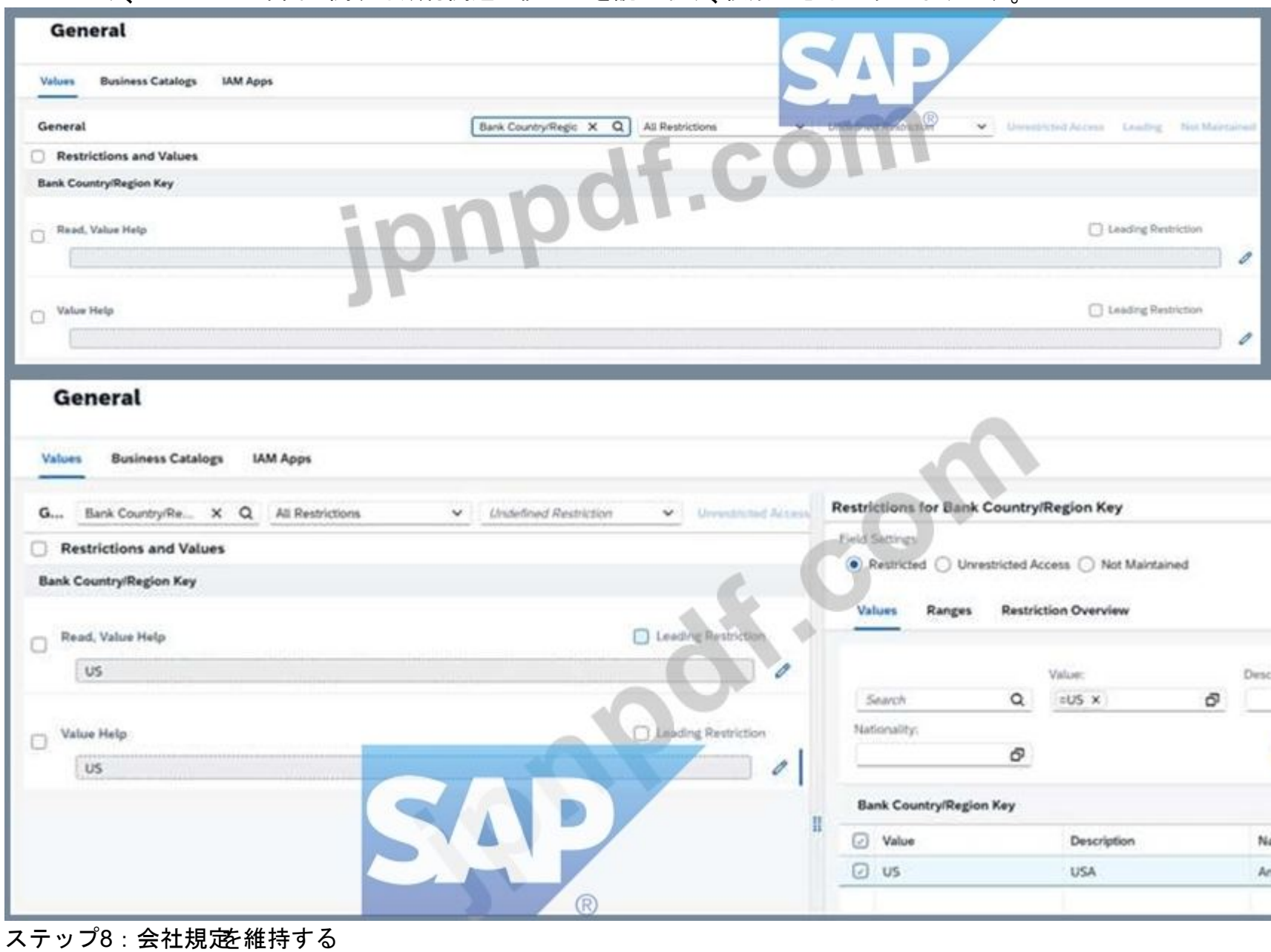
Restriction Name	Restriction Type	Restriction Value
Bank Country/Region Key	Read, Value Help	US
Bank Country/Region Key	Value Help	US
Company Code	Write, Read, Value Help	1710
Company Code	Read, Value Help	1710
Purchasing Organization	Write, Read, Value Help	1710
Purchasing Organization	Read, Value Help	1710
Purchasing Organization	Value Help	1710
Valuation Area	Read, Value Help	1710
Valuation Area	Value Help	1710

つまり、次のとおりです。
国別制限 = 米国
組織/企業制限 = 1710
詳細な手順
ステップ1 :アプリ 〆ビジネスロールの管理」を開きます。
SAP S/4HANA Cloud Launchpadより：
システムにログインしてください。
検索する：
ビジネス上の役割を維持する

jpnpdf.com

アプリを開いてください。
Explanation:
このアプリは、前のタスクでカスタムロールが作成され、その制限が維持されている場所です。
ステップ2 :カスタムのプロジェクトマネージャー（米国)ロールを開きます
ビジネスロールの維持において：
ご希望のロールを検索してください。
IDパターンを使用してロールを開きます。
BR_PROJECT_MANAGER_PROF_US_######
例
接尾辞が000457の場合、役割は次のとおりです。
BR_PROJECT_MANAGER_PROF_US_000457
Explanation:
標準のSAPテンプレートロールではなく、カスタムロールを開く必要があります。
これらの制限は、派生したカスタムロールのみに適用されます。
ステップ3：正しいカスタムロールが開いていることを確認します
役割の詳細を確認し、以下の点を確認してください。
ビジネスロールIDがカスタムロールと一致します。
この説明は、米国特有のプロジェクトマネージャーの役割と一致しています。
この役割は、テンプレートSAP_BR_PROJECT_MANAGER_PROFに基づいています。
Explanation:
これにより、誤って別の役割を変更してしまうことを防ぎます。
ステップ4 :[制限を維持する]をクリックします。
カスタムロールページで：
クリック：
制限を維持する
Explanation:
これにより、アクセスカテゴリとフィールドレベルの値が制御される詳細な制限管理領域が開きます。
ステップ5：制限メンテナンス用のアクセスカテゴリを設定する
制限ページで、アクセスカテゴリが役割に応じて適切に設定されていることを確認してください。
実行中は、これらのカテゴリは制限付きとして維持され、リストされたフィールドに値を入力できるようにしました。
Explanation:
制限値は、ロールが適切な制限モードになっている場合にのみ正しく維持されます。
この手順では、指定されたフィールドに米国/1710の値が入力されるようにロールを準備します。
ステップ6：値を入力する前にルールを理解する
このタスクでは、厳格なルールが適用されます。
維持管理する
表に明示的に記載されている項目のみに値を入力する必要があります。
メンテナンス対象外に設定
表に記載されていないその他の制限項目はすべて、以下のようにマークする必要があります。
メンテナンスされていません

Explanation:
これは、このタスク全体の中で最も重要な論理です。
関連性のないフィールドが制限付きまたは空白のままになっている場合、検証上の問題が発生したり、意図した以上のアクセス権限が付与されたりする可能性があります。
パートA：必須の制限フィールドを維持する
ステップ7：銀行の国/地域キーを維持する
検索する：
銀行の国/地域凡例
そして維持する：
読んでください、価値あるヘルプ = US
価値に関するヘルプ = 米国
Explanation:
これにより、ユーザーは米国に関する銀行関連の値のみを読み取り、検索できるようになります。



ステップ8：会社規定を維持する
検索する：

会社コード
そして維持する：
書き込み、読み取り、値に関するヘルプ = 1710
読み取り、値ヘルプ = 1710
タスクで明示的に要求されない限り、会社コード用の独立した値ヘルプエントリを別途作成しないでください。
Explanation:
タスクテーブルには、独立した会社コード値ヘルプ行は含まれていません。
したがって、リストされている2つの会社コード制限タイプのみに1710が含まれるはずです。



ステップ9：購買組織を維持する
検索する：
購買組織
そして維持する：
書き込み、読み取り、値に関するヘルプ = 1710
読み取り、値ヘルプ = 1710
値ヘルプ = 1710
Explanation:
これにより、その役割における購買組織関連のアクセスはすべて組織価値1710に制限されます。

ステップ10：評価エリアの維持
検索する：
評価対象地域
そして維持する：
読み取り、値ヘルプ = 1710
値ヘルプ = 1710
Explanation:
これにより、評価関連のアクセスが、本来の組織的範囲に限定される。
パートB :その他のすべてのフィールドを 未管理」に設定します。
ステップ11 :その他の制限フィールドを検索する
必須項目を入力した後、残りの制限項目を確認してください。
実行結果の例には、次のようなフィールドが含まれていました。
会計原則
ビジネスパートナー向け承認グループ
請求タイプ
その他多くの無関係な制限分野
Explanation:
これらのフィールドはタスクテーブルに記載されていないため、制限されたままにしてはいけません。
ステップ12：関連性のないフィールドを 未管理」としてマークする
必須テーブルに記載されていない各フィールドについて：
フィールド設定／制限ダイアログを開きます。
選ぶ：
メンテナンスされていません
重要な例
あなたのランニングから：
会計原則 → 未遵守
ビジネスパートナー向け承認グループ → メンテナンスされていません
請求タイプ → 未登録
Explanation:
これらのフィールドは、必須の米国/1710制限リストの対象外です。
必須値を設定せずに制限したままにしておくと、設定が間違っています。
ステップ13：記載されているフィールドを 未管理」としてマークしないでください。
以下の項目は必須テーブルに含まれているため、値を保持したまま維持する必要があります。
銀行の国/地域凡例
会社コード
購買組織
評価対象地域
Explanation:
関連性のないフィールドのみが メンテナンス対象外」になります。
リストされたフィールドには、必要な値のみを入力するように制限する必要があります。

ステップ14 :ロールを保存する
必須項目がすべて入力され、その他の項目がすべて未入力としてマークされた後：
「保存」をクリック
Explanation:
これで役割制限が確定します。
保存しないと、制限の変更は不完全なままになります。
ステップ15：制限結果を確認する
保存後、以下の点を確認してください。
必須フィールドには、US と 1710 が定義どおりに含まれています。
無関係な分野はもはや制限されず、
ロールはエラーなく保存されます。
Explanation:
これは、制限付きカスタムロールが正しく設定されたことを示す最終的な証拠です。
期待される結果
タスクが正常に完了した後：
カスタムロールはSAP_BR_PROJECT_MANAGER_PROFに基づいています。
必須の米国/1710制限フィールドが維持されます。
関係のない制限フィールドはすべて「メンテナンスされていません」とマークされています。
役割は正常に保存されました。
この役割は現在、米国を拠点とするプロジェクトマネージャーにとって必要最低限のアクセス権限を反映したものとなっている。

最新問題**: 2**
シミュレーション
制限付きのカスタムビジネスロールを作成する
ビジネスシナリオ：
エンドユーザーがコア業務を遂行するために必要な最小限のアクセス権限のみを持つように、制限付きのカスタムビジネスロールを作成しています。エンドユーザーは米国を拠点とするプロジェクトマネージャーです。彼らは米国で行われているプロジェクトの作成、編集、およびアクセスのみを許可する必要があります。米国以外のリソースに人員を配置することはできません。ヘルプの書き込み、読み取り、および値へのアクセスは、関連するすべてのフィールドで米国のみに制限する必要があります。
前提条件：
注：以下のタスクでは、###### を必ずグループ番号の下6桁に置き換えてください。
注 :タスクに記載されている名前、値、スペースを正確に使用してください。スペースや数字を一つでも忘れると、タスクの検証が失敗し、不正解と判定されます。
タスク：
ビジネスロール「プロジェクトマネージャー - プロフェッショナルサービス (SAP_BR_PROJECT_MANAGER_PROF)」のテンプレートを使用して、以下の情報を含む新しいビジネスロールを作成します。

Parameter	Value
New Business Role ID	BR_PROJECT_MANAGER_PROF_US_######
New Business Role Description	Project Manager - Professional Services - US - ######
Option for Launchpad Spaces	Create and Assign Spaces Based on Space Templates
New Space ID	ZBR_PROJECT_MANAGER_PROF_US_######
Activate IAM Apps	*Yes (check the box)*

SAP ®
Ipnpdf.com

Answer:

すべての解決策については、以下の説明を参照してください。

Explanation:

客観的

このタスクの目的は、標準のSAPテンプレートロール 「プロジェクトマネージャー - プロフェッショナルサービス」を使用して、米国のプロジェクトマネージャー向けにカスタムビジネスロールを作成し、ユーザーが業務に必要な最小限のアクセス権限のみを持つようにロールを制限することです。

使用されているテンプレートロールは次のとおりです。

テンプレートビジネスロールID: SAP_BR_PROJECT_MANAGER_PROF

テンプレートのビジネスロールの説明: プロジェクトマネージャー - プロフェッショナルサービス 新しいカスタムロールは、タスクで定義された正確な値を使用して作成する必要があります。

ビジネスシナリオの説明

このシミュレーションでは、米国でのみ勤務するプロジェクトマネージャー向けに、制限付きのカスタムロールを作成します。

目標は、これらのエンドユーザーが以下のことを確実にできるようにすることです。

プロジェクトの作成と編集が可能、

米国で行われているプロジェクトのみにアクセスできます。

米国外のプロジェクトや人員配置には対応できません。

必要最低限の権限のみを持つ。

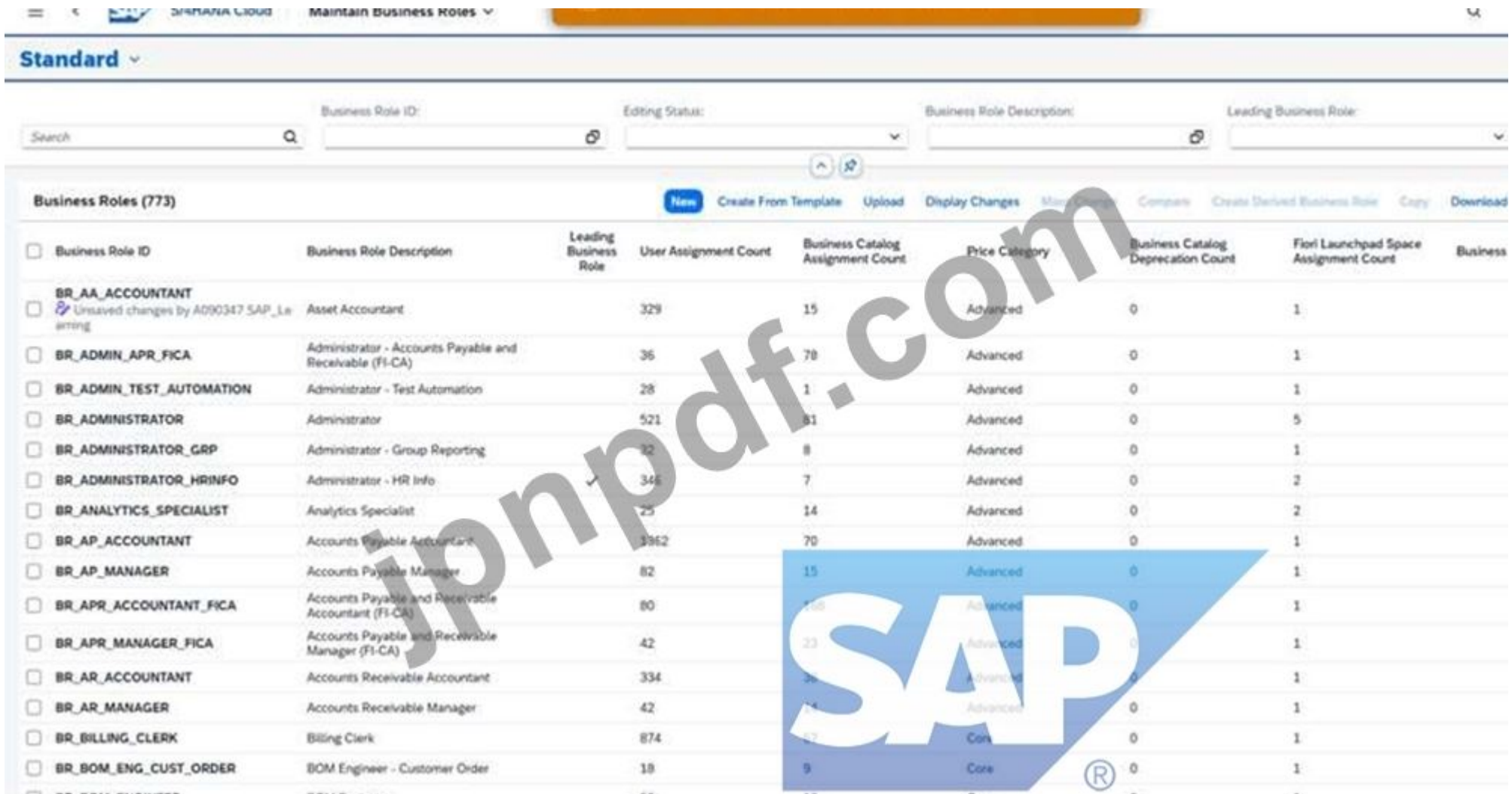
これは大きく2つの部分から構成されます。

標準のSAPテンプレートから新しいカスタムビジネスロールを作成します。

役割の値を制限して、米国関連のデータのみを許可する

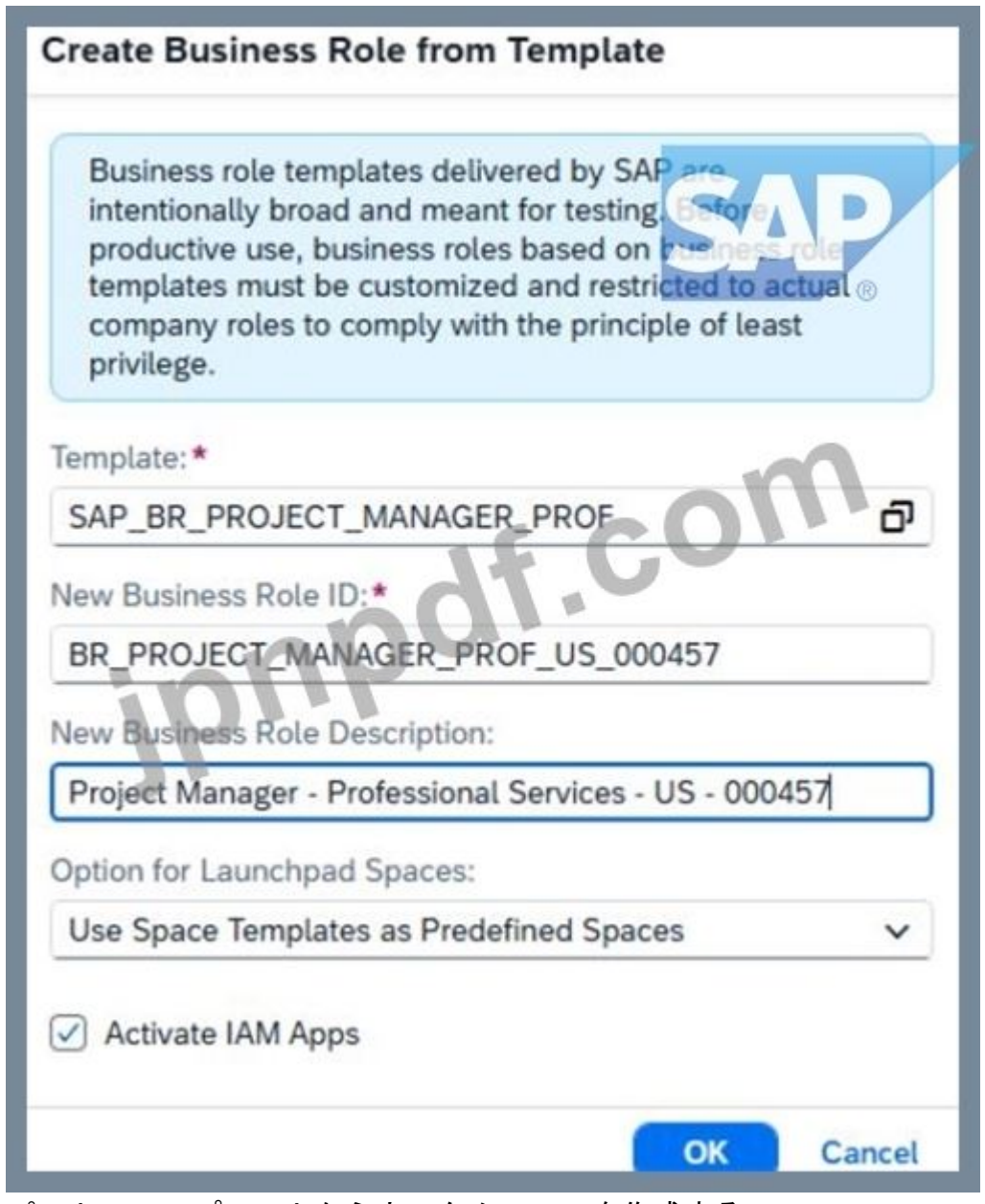
重要な注意事項

の部分は、必ずご自身のグループ番号の下6桁に置き換えてください。
すべての値は、表示されているとおりに正確に入力してください。
スペースが1つ抜けていたり、文字が間違っていたりするだけでも、シミュレーションの検証が失敗する可能性があります。
カスタムロールの作成の一環として、起動パッドスペースを作成して割り当てる必要もあります。
ロール作成に必要な値
タスク画像に示されている値をそのまま使用してください。
パラメータ
価値
新規事業役割ID
BR_PROJECT_MANAGER_PROF_US_######
新規事業担当職務内容
プロジェクトマネージャー - プロフェッショナルサービス - 米国 - ######
ローンチパッドスペースのオプション
スペーステンプレートに基づいてスペースを作成および割り当てる
新しいスペースID
ZBR_PROJECT_MANAGER_PROF_US_######
IAMアプリをアクティブ化する
はい（チェックボックスにチェックを入れてください）
例
接尾辞が000457の場合、値は次のようになります。
BR_PROJECT_MANAGER_PROF_US_000457
プロジェクトマネージャー - プロフェッショナルサービス - 米国 - 000457
ZBR_PROJECT_MANAGER_PROF_US_000457
詳細な手順
パート1：標準テンプレートロールを開く
ステップ1 :アプリ「ビジネスロールの管理」を開きます。
SAP S/4HANA Cloud Launchpadより：
SAP S/4HANA Cloudにログインしてください。
アプリ内検索を使用してください。
検索する：
ビジネス上の役割を維持する
アプリを開いてください。
Explanation:
このアプリは、標準およびカスタムの業務ロールを管理するために使用されます。
このタスクでは既存のテンプレートからカスタムロールを作成する必要があるため、これが適切な開始アプリです。



Jpnpdf.com

ステップ2 :テンプレートロールを検索する
ビジネスロールの維持に関する内部情報:
検索/フィルター領域で、以下を検索してください。
SAP_BR_PROJECT_MANAGER_PROF
または
プロジェクトマネージャー - プロフェッショナルサービス
標準のSAPテンプレートロールを開きます。
Explanation:
タスクではテンプレートの使用について明示的に指示されているため、標準テンプレートロールから始める必要があります。
プロジェクトマネージャー - プロフェッショナルサービス
SAP_BR_PROJECT_MANAGER_PROF



パート2 :テンプレートからカスタムロールを作成する

ステップ3：派生ビジネスロールの作成」をクリックします。

テンプレートロールページで：

クリック：

派生ビジネスロールを作成する

Explanation:

この機能は、標準のSAPビジネスロールテンプレートに基づいて、顧客固有のコピーを作成します。

提供されたロールの内容は保持されますが、独自のロールID、説明、制限、および起動パッド領域を定義できます。

ステップ4 :カスタムロール情報を入力します

作成ポップアップ画面で、以下の値を正確に入力してください。

テンプレート = SAP_BR_PROJECT_MANAGER_PROF

新しいビジネスロールID = BR_PROJECT_MANAGER_PROF_US_######

新しいビジネスロールの説明 = プロジェクトマネージャー - プロフェッショナルサービス - 米国 - ###### Launchpad スペースのオプション = スペーステンプレートに基づいてスペースを作成して割り当てる 新しいスペース ID = ZBR_PROJECT_MANAGER_PROF_US_###### IAM アプリをアクティブ化する = チェック済み 説明:

これらの値は、後に米国のみへのアクセスに制限される予定の新しいカスタムプロジェクトマネージャーの役割を定義するものです。
スペースオプションは重要です。なぜなら、このタスクでは、役割に専用の発射台スペースが含まれることが想定されているからです。



ステップ5：作成を確認する
「OK」をクリックしてください。
Explanation:
SAPは、テンプレートから派生したカスタムロールを作成すると同時に、新しい起動パッドスペースを割り当てます。
パート3：新しく作成したカスタムロールを確認する
ステップ6：新しいカスタムロールを確認する
作成後、SAPは新しいカスタムロールを開きます。
確認する：
ビジネスロールID = BR_PROJECT_MANAGER_PROF_US_######

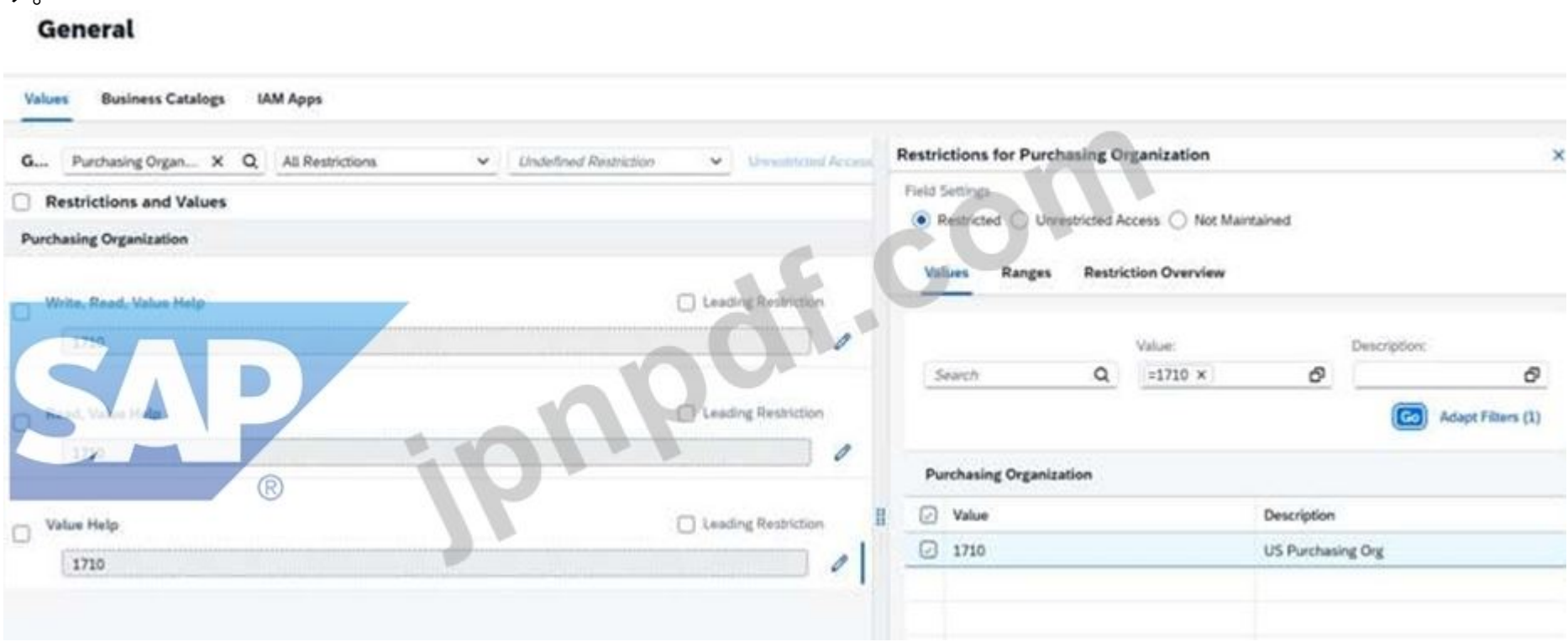
ビジネスロールの説明 = プロジェクトマネージャー - プロフェッショナルサービス - 米国 - ###### ビジネスロールテンプレートID = SAP_BR_PROJECT_MANAGER_PROF 説明:
これは、派生ロールが適切なSAPテンプレートから正しく作成されたことを確認するものです。
パート4：役割制限を維持する
ステップ7：制限の維持」を開く
カスタムロールページで：
クリック：
制限を維持する
Explanation:
これはこの任務の中で最も重要な部分です。
あなたは単に役割を作成するだけでなく、その役割を制限して、米国関連の値のみを許可するように設定しているのです。
ステップ8：制限維持に関するルールを理解する
PDF/タスクのロジックは以下のとおりです。
制限テーブルに明示的にリストされているフィールド → 制限されたままにして、必要な値を入力します。タスクテーブルにリストされていないその他のすべてのフィールド → メンテナンス対象外に設定します。説明:
これは不可欠です。
追加フィールドが制限されているか空白のままの場合、役割が正しく検証されない可能性があります。
最も安全な方法は以下のとおりです。
必須フィールドのみを維持する
関連性のないフィールドはすべて 未管理」とマークしてください。



jpnpdf.com

パート5：必要な米国の制限事項を入力してください

あなたの運動記録から得られた維持値には、以下のような制限が含まれていました。
必要に応じて、これらのフィールドをUS/1710値に制限してください。実行例：
銀行の国/地域凡例
読んでください、価値あるヘルプ = US
価値に関するヘルプ = 米国
会社コード
タスク テーブルで明示的に要求されている場合にのみ 1710 を使用してください。
購買組織
必要に応じて1710を使用してください
評価対象地域
必要に応じて1710を使用してください
Explanation:
これらは、その役割が想定された地域および事業範囲でのみ利用可能となるための、まさにビジネス上の制約事項です。
ステップ9：関連性のない制限フィールドを 未設定」に設定する
タスクの制限リストに含まれていないフィールドごとに、以下を選択してください。
メンテナンスされていません
スクリーンショットの例には、次のようなフィールドが含まれていました。
会計原則
ビジネスパートナー向け承認グループ
請求タイプ
これらは、タスクの必須制限表に明示的に記載されていない限り、維持管理対象外とする必要があります。
Explanation:
これにより、不要なアクセス権限が削除され、他のすべてのフィールドを 未管理」に設定する必要があるというタスクの文言と一致します。



jpnpdf.com

ステップ10：制限事項を保存する
必要な値をすべて入力し、関連性のないフィールドを 「未保守」とマークした後：
「保存」をクリック
Explanation:
これにより、ロールの制限プロファイルが保存されます。
ここで保存しないと、役割は未完成または下書きのままになります。
パート6：Launchpadのスペースとページの作成を確認する
ステップ11：Launchpad Spacesへ移動
カスタムロールでは：
タブを開く：
ローンチパッドスペース
割り当てられたスペースが存在することを確認してください。
ZBR_PROJECT_MANAGER_PROF_US_######
Explanation:
「スペーステンプレートに基づいてスペースを作成および割り当てる」を選択したため、SAPは起動パッドスペースを自動的に作成して割り当てたはずです。
ステップ12：作成されたスペースを確認する
割り当てられたスペースを開いて確認してください。
カスタムスペースが存在します。
顧客管理型で、
ページは正しく割り当てられています。
Explanation:
これは、新しいビジネス役割が、タスクの要求に応じて独自の立ち上げ構造を備えていることを証明している。
期待される結果
このタスクが正常に完了すると：
SAP_BR_PROJECT_MANAGER_PROF に基づく新しいカスタムロールが存在します。
この役割では、必要なIDと説明を正確に使用します。
この役割には専用の起動パッドスペースがあり、
IAMアプリが有効化されています。
米国からのアクセスのみに制限が維持されています。
関係のないフィールドはすべて 「未保守」に設定されています。
役割は正常に保存されました。

最新問題: **3**
シミュレーション
銀行データの移行
ビジネスシナリオ
あなたは銀行データをSAP S/4HANA Cloud Public Editionシステムに移行する責任を負っています。移行対象の銀行が数行しかないため、ステージングテーブルを使用したデータ移行が最適な方法であると判断しました。
前提条件：

注記：
以下の課題では、###### を必ずグループ番号の下6桁に置き換えてください。
注記：
タスクに記載されている名前、値、スペースを、正確に使用してください。スペースや数字を一つでも忘れると、タスクの検証が失敗し、不正解と判定されます。
タスク：
以下の情報を使用して、新しい移行プロジェクトを作成してください。

Parameter	Data
Name	Bank Data ######
Migration object	Bank

Answer:
すべての解決策については、以下の説明を参照してください。
Explanation:
客観的
このタスクの目的は、SAP S/4HANA Cloud Public Editionにおける銀行データ移行シナリオのための新しい移行プロジェクトを作成することです。
このシナリオにおける移行方法は以下のとおりです。
ステージングテーブルを使用してデータを移行する
移行プロジェクトは、タスクで指定された値と完全に一致する値を使用して作成する必要があります。
ビジネスシナリオの説明
このシナリオでは、銀行マスタデータをSAP S/4HANA Cloud Public Editionに移行する責任はあなたにあります。
ロードする必要のある銀行はごく少数であるため、選択された移行方法は以下のとおりです。
ステージングテーブルを使用してデータを移行する
ファイルのアップロードや銀行データの検証および移行を行う前に、まず移行プロジェクトを作成する必要があります。このプロジェクトは、以下の主要なコンテナとして機能します。
マイグレーションオブジェクト、
ステージングテーブルへのアップロード、
検証、
マッピング、
ステージングテーブルへ転送、
そして最終的な移行実行。
重要な注意事項
の部分は、必ずご自身のグループ番号の下6桁に置き換えてください。
課題に示されている値を正確に使用してください。
移行プロジェクトは、以下の方法で作成する必要があります。
ステージングテーブルを使用してデータを移行する
移行オブジェクトは以下である必要があります。

銀行
値が正しいことを確認してから、プロジェクトを保存または作成してください。
必須値
タスク画像に示されている値をそのまま使用してください。
パラメータ
データ
名前
データバンク ######
移行オブジェクト
銀行
例
接尾辞が000013の場合、値は次のようになります。
名前 = 銀行データ 000013
移行対象 = 銀行
詳細な手順
ステップ1 :アプリ 『データの移行」を開きます。
SAP S/4HANA Cloud Launchpadより：
SAP S/4HANA Cloudにログインしてください。
アプリ内検索を使用してください。
検索する：
データの移行
または
移住プロジェクト
アプリを開いてください。
Explanation:
このアプリは、移行プロジェクトを作成し、マスターデータとトランザクションデータをシステムにロードするために使用される移行コックピットです。
このタスクでは新しい移行プロジェクトを作成するように求められているため、これが適切な開始点となります。
ステップ2：新しい移行プロジェクトの作成を開始する
移行アプリの内部：
クリック：
作成する
ドロップダウンが表示されたら、以下を選択してください。
ステージングテーブルを使用してデータを移行する
Explanation:
これは非常に重要です。なぜなら、ビジネスシナリオでは、選択された移行方法として 『ステージングテーブルを使用したデータ移行」が明示的に示されているからです。
選択しないでください:
SAPシステムから直接データを移行する
それはこのタスクにとって不適切な移行方法でしょう。

ステップ3：移行プロジェクト名を入力します
プロジェクト作成画面で、以下を入力します。
名前 = 銀行データ ######
例
接尾辞が000013の場合は、以下を入力してください。
データバンク000013
Explanation:
これは移行プロジェクトの名前であり、タスク要件と完全に一致する必要があります。
ステップ4 :ステージングテーブルの移行アプローチを維持する
プロジェクト作成画面で、移行方法が以下のとおりであることを確認してください。
ステージングテーブルを使用してデータを移行する
Explanation:
これにより、移行プロジェクトが、後続のCSV/ステージングテーブル処理に適したロード方法で作成されることが保証されます。
ステップ5 :ローカルデータベースへの接続を維持する
システムがデータベース接続を要求したら、デフォルト設定のままにしてください。
ローカルSAP S/4HANAデータベーススキーマ
Explanation:
今回の実行では、移行プロジェクトにローカルスキーマが使用されました。
これは、トレーニングシナリオにおいて想定される選択肢です。
ステップ6：移行対象に進みます
クリック：
ステップ2
または、プロジェクト作成の2番目のステップに進みます。
Explanation:
これにより、一般的なプロジェクトヘッダー情報から移行オブジェクトの選択へと画面が移動します。
ステップ7：移行オブジェクトを検索する
移行オブジェクトのセクションで：
検索する：
銀行
Explanation:
このタスクでは、移行オブジェクトが明示的に必要です。
銀行
したがって、そのオブジェクトのみを選択する必要があります。
ステップ8：移行オブジェクト 銀行」を選択します。
オブジェクトが表示されたとき：
選択してください:
銀行
選択した移行オブジェクト領域に表示されていることを確認してください。
Explanation:
この手順では、プロジェクトを銀行の移行オブジェクトに具体的にリンクします。

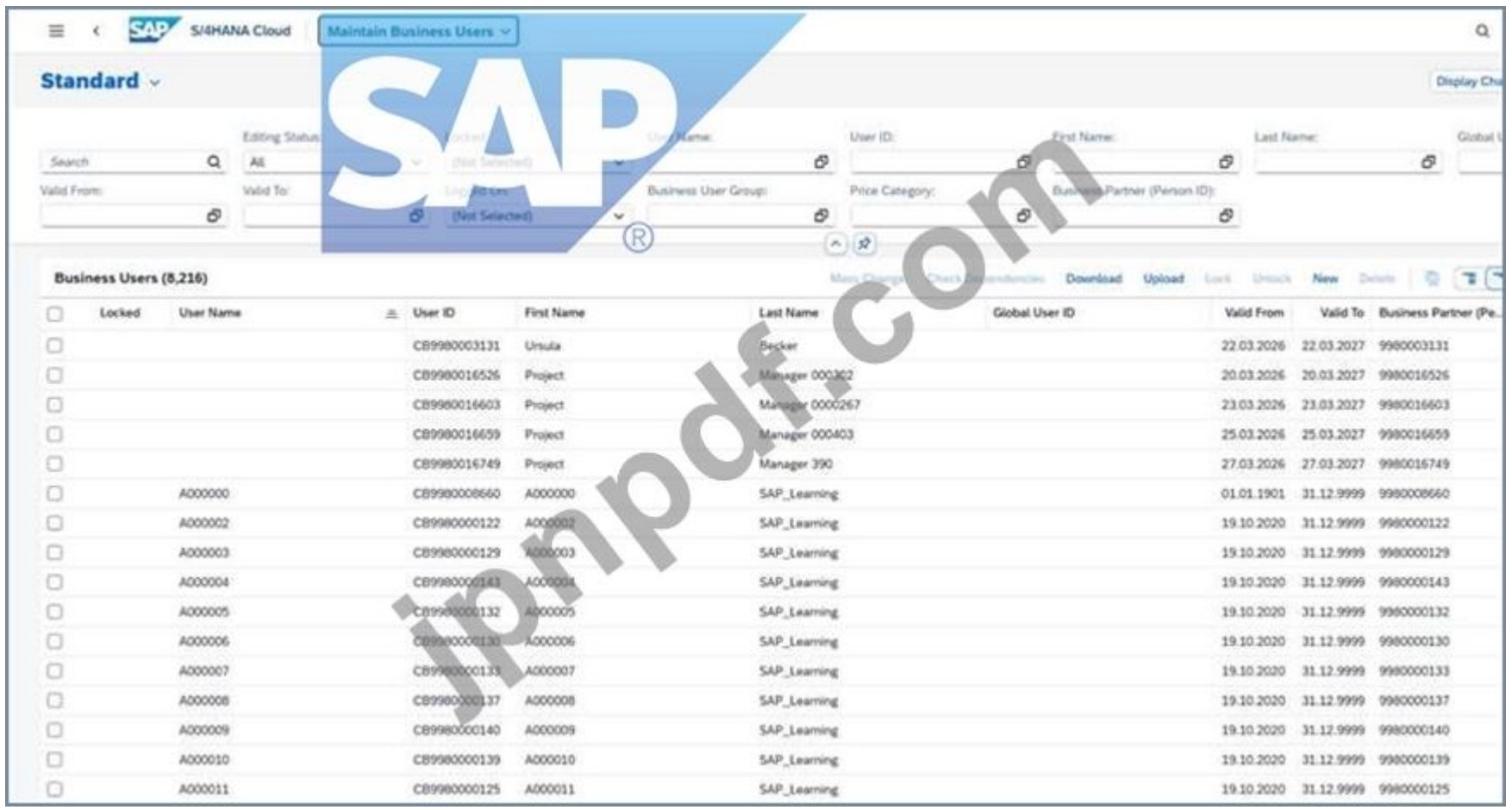
移行対象を選択しないと、移行プロジェクトは完了しません。
ステップ9：移行プロジェクトを作成する
確認後：
プロジェクト名、
移行アプローチ、
データベース接続、
移行オブジェクト = 銀行、
クリック：
作成する
またはシステムが提供する最終確認ボタン
Explanation:
これで移行プロジェクトの作成が完了しました。
ステップ10：作成した移行プロジェクトを確認する
作成後、新しいプロジェクトに以下が表示されていることを確認してください。
プロジェクト名 = 銀行データ ######
移行対象 = 銀行
Explanation:
これにより、プロジェクトが正常に作成され、テンプレートのダウンロード、CSVファイルの作成、検証、ステージングテーブルへの転送、および移行の実行の準備が整ったことが確認できます。
期待される結果
このタスクが正常に完了すると：
新しい移住プロジェクトが存在する。
プロジェクト名が必須の命名パターンに一致しています。
移行アプローチはステージングテーブルです。
移行対象は銀行です。
プロジェクトは次の移行ステップに進む準備が整いました。

最新問題**: 4**
シミュレーション
注 :この実技認定試験では、概要レベルの手順のみが提示されます。手順の説明は完全で、動作確認済みです。詳細な説明は省略されています。これは、システムを自力で操作する能力を測るための試験だからです。
注意: 必ず割り当てられたグループ番号を使用してください。以下のタスクでは、最後の 6 桁が ###### と表記されます。自分のグループ番号を使用していない場合、結果は記録されません。グループ番号を確認するには: 右上隅でユーザーを選択します。ユーザー名と一連の数字が表示されます。最後の 6 桁をグループ番号として使用してください。注意: システムをスムーズに稼働させ、不要なコストを回避するために、SAP Landscape を使用する際は、割り当てられた演習を注意深く実行してください。演習の範囲を超えないようにし、グループ番号のみを使用して、すべての人にとって安定した効率的な環境を維持するようにしてください。
Answer:
すべての解決策については、以下の説明を参照してください。
Explanation:
目的：自分自身の6桁の接尾辞を特定し、すべての作業で一貫して使用する。

SAP S/4HANA Cloudの右上にあるユーザーメニューを開きます。
ユーザー名を読み、下6桁をメモしてください。
タスク PDF に ###### と表示されている箇所すべてに、その最後の 6 桁を使用してください。
このガイドで使用されている例: 000013

最新問題**: 5**
シミュレーション
ビジネスシナリオ :あなたは実装プロジェクトに取り組んでおり、今後の 「標準適合ワークショップ」でプロジェクトマネージャーにプロフェッショナルサービスのビジネスプロセスを実演するために、システムにテストユーザーを作成する必要があります。以下の手順に従って、従業員と業務契約データの基本的なインポートを含む新しいテストユーザーを作成してください。
注：以下のタスクでは、###### を必ずグループ番号の下6桁に置き換えてください。
注記：
タスクに記載されているとおり、名前、値、スペースを正確に使用してください。
スペースや数字を一つでも忘れると、タスクの検証が失敗し、不正解と判定されます。
タスク：
新しいユーザーにプロジェクトマネージャー - プロフェッショナルサービス (BR_PROJECT_MANAGER_PROF) のビジネスロールを割り当てて保存します。
Answer:
すべての解決策については、以下の説明を参照してください。
Explanation:
客観的
このタスクの目的は、新しく作成されたテストユーザーに 「プロジェクトマネージャー - プロフェッショナルサービス」のビジネスロールを割り当て、そのユーザーが 「標準適合性ワークショップ」中に必要となるプロフェッショナルサービスのプロセスを実行できるようにすることです。
求められるビジネスロールは以下のとおりです。
ビジネスロールID: BR_PROJECT_MANAGER_PROF
ビジネス役割説明 :プロジェクトマネージャー - プロフェッショナルサービス
ビジネスシナリオの説明
前回のタスクでは、プロフェッショナルサービスのプロセスを実証するために、新しいテストユーザーを作成しました。
その新規ユーザーには、適切なプロジェクトマネージャー権限が付与される必要があります。
この業務上の役割がないと、テストユーザーはワークショップのデモンストレーションに必要なプロジェクトマネージャーのアプリ、ページ、およびプロセスにアクセスできません。
このタスクは、新しく作成されたユーザーを標準的なプロフェッショナルサービスプロジェクトマネージャーの役割に接続します。
重要な注意事項
の部分は、必ずご自身のグループ番号の下6桁に置き換えてください。
必要に応じて正確な値を使用してください。
ビジネスロールIDは以下である必要があります。
BR_プロジェクトマネージャー_プロフェッショナル
類似の役割や部分一致は使用しないでください。

最後に保存してください。そうしないと、課題が完了しません。
詳細な手順
ステップ1 :アプリ ビジネスユーザーの管理」を開きます。
SAP S/4HANA Cloud Launchpadより：
システムにログインしてください。
アプリ内検索を使用してください。
検索する：
ビジネスユーザーの維持
アプリを開いてください。
Explanation:
このアプリは、ビジネスユーザーの管理とビジネスロールの割り当てに使用されます。
前回のタスクで新しいユーザーが作成されたため、このアプリが新しい役割を割り当てるのに適切なアプリです。
ステップ2：新しく作成されたプロジェクトマネージャーのテストユーザーを検索する
ビジネスユーザーの維持管理において：
フィルター／検索欄に、新しいテストユーザーのユーザー名を入力してください。
必要なユーザー名の形式は次のとおりです。
PM######



例
グループ番号の末尾が0000457の場合は、以下を検索してください。
PM0000457
Go」をクリックしてください。

Explanation:
ご自身のユーザーではなく、新しく作成したプロジェクトマネージャーのテストユーザーを開いてください。
このタスクにおける役割の割り当ては、タスク4で作成されたインポート済みのテストユーザーに属します。

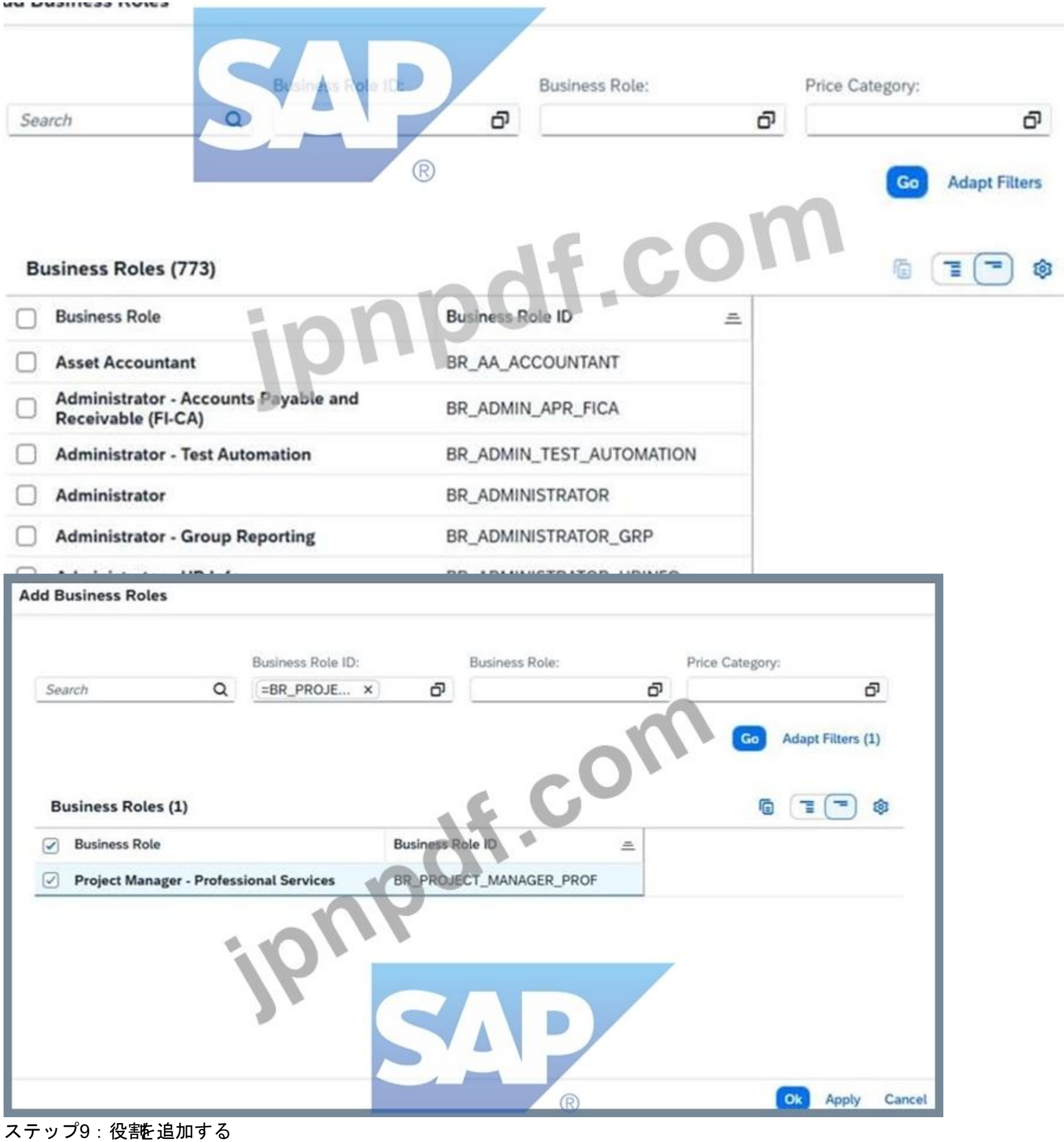


ステップ3：新しいビジネスユーザーレコードを開く
検索結果より：
ユーザーエントリを以下でクリックします。
ユーザー名 = PM######
詳細ページを開いてください。
Explanation:
これにより、プロジェクトマネージャーの役割が割り当てられる従業員/ビジネスユーザーのレコードが開きます。



ステップ4：正しいユーザーアカウントでログインしていることを確認します。
編集する前に、ビジネスユーザーの詳細情報が正しいことを確認してください。
一般的な期待値は以下のとおりです。
ユーザー名 = PM######
名字 = プロジェクト
姓 = マネージャー ######

メールアドレス = PM######@dummy.sap.com
Explanation:
このチェックは重要です。なぜなら、役割を誤ったユーザーに割り当てると、シミュレーションの検証が失敗するからです。
ステップ5：編集モードに切り替える
ビジネスユーザーの詳細ページで：
「編集」をクリック
Explanation:
役割リストを変更するには、編集モードが必要です。
ステップ6：「割り当てられたビジネスロール」タブを開きます。
ビジネスユーザーレコードの内部：
タブをクリックしてください：
割り当てられた業務上の役割
Explanation:
このタブには、新しいテストユーザーに現在割り当てられているすべての役割が表示され、プロジェクトマネージャーの役割を追加するのに最適な場所です。
ステップ7：追加をクリック
割り当てられたビジネスロールのセクションで：
「追加」をクリック
システムがポップアップを開きます。
ビジネスロールを追加する
Explanation:
このポップアップは、SAPが提供する標準的なビジネスロールを検索してユーザーに追加するために使用されます。
ステップ8 :プロジェクトマネージャーの役割を検索する
「ビジネスロールの追加」ポップアップで：
ビジネスロールIDのフィルターフィールドに、以下を入力します。
BR_プロジェクトマネージャー_プロフェッショナル
「Go」をクリック
選択してください:
プロジェクトマネージャー - プロフェッショナルサービス
ビジネスロールID: BR_PROJECT_MANAGER_PROF
Explanation:
これは、この業務で求められる標準的なビジネス役割そのものです。
これは、テストユーザーに対して、プロフェッショナルサービスプロジェクトマネージャーのアクセス権を提供するものです。



ステップ9：役割を追加する

jpnpdf.com

役割を選択した後：
「OK」または「適用」をクリックしてください。
Explanation:
この時点では、役割はユーザーにドラフトモードで追加されますが、保存されるまでは変更は確定しません。
ステップ10 :ビジネスユーザーを保存する
ユーザー詳細ページに戻る：
「保存」をクリック
Explanation:
これが最後の必須ステップです。
保存しないと、役割の割り当ては保存されず、タスクは正常に完了しません。



jpnpdf.com

ステップ11：割り当てを確認する
保存後、ユーザーに以下の役割が付与されていることを確認してください。
プロジェクトマネージャー - プロフェッショナルサービス
BR_プロジェクトマネージャー_プロフェッショナル
Explanation:
これにより、新しいテストユーザーが今後のプロフェッショナルサービスプロセスのデモンストレーションに向けて適切に準備が整ったことが確認されました。
期待される結果
タスク完了後：
新しいテストユーザー PM###### が存在します。
ロールBR_PROJECT_MANAGER_PROFが割り当てられています。
ユーザーの保存に成功しました。
ユーザーは、ワークショップのシナリオにおいて、後ほどプロフェッショナルサービスのプロジェクトマネージャーとして活用される可能性がある。

最新問題: **6**
シミュレーション
統合シナリオを設定する

ビジネスシナリオ
あなたは、ファイルインターフェース（1EG）を使用した銀行連携の設定を担当します。実際の導入時には、まずSAP Signavio Process Navigatorからビジネスプロセスのセットアップ手順書をダウンロードする必要があります。この実技試験では、必要な情報はすべて提供されるため、セットアップ手順書をダウンロードする必要はありません。
前提条件
注記：
以下の課題では、###### を必ずグループ番号の下6桁に置き換えてください。
注記：
タスクに記載されている名前、値、スペースを、正確に使用してください。スペースや数字を一つでも忘れると、タスクの検証が失敗し、不正解と判定されます。
あなたのタスク
以下の情報を使用して、財務部門のコミュニケーション設定（売掛金銀行取引明細書の統合）を作成し、保存してください。

Parameter	Value
Scenario	SAP_COM_0316
Arrangement Name	SAP_COM_0316_######
Communication System	*Select previously created system* (1EG_SYSTEM_######)

ipnpdf.com

Answer:
すべての解決策については、以下の説明を参照してください。
Explanation:
客観的
このタスクの目的は、前のタスクで作成した通信システムを使用して、銀行統合シナリオのための通信設定を作成することです。
必要なシナリオは以下のとおりです。
シナリオID: SAP_COM_0316
シナリオの説明：財務 売掛金銀行取引明細書の統合 これは、統合シナリオ設定シーケンスの最終設定手順です。
ビジネスシナリオの説明
前回のタスクでは、以下のものを作成しました。
コミュニケーションユーザー
通信システム
次に、通信シナリオと通信システムをリンクする通信設定を作成する必要があります。
SAP S/4HANA Cloudでは、通信設定によって以下が定義されます。
どの通信シナリオが使用されるか、
どの通信システムが接続されているか、
どの受信/送信サービスがアクティブか、
また、統合に適用される技術設定についても教えてください。
このタスクでは、通信方式は以下のように使用されます。

財務 - 売掛金銀行取引明細書の統合
シナリオ: SAP_COM_0316
重要な注意事項
の部分は、必ずご自身のグループ番号の下6桁に置き換えてください。
提供された値をそのまま使用してください。
スペース、アンダースコア、大文字 -小文字の区別は変更しないでください。
選択する通信システムは、タスク14で作成したものでなければならない。
1EG_SYSTEM_######
必須値
タスク画像に示されている値をそのまま使用してください。

Parameter	Value
Scenario	SAP_COM_0316
Arrangement Name	SAP_COM_0316_######
Communication System	*Select previously created system* (1EG_SYSTEM_######)

ipnpdf.com

例
接尾辞が000013の場合、値は次のようになります。
シナリオ = SAP_COM_0316
アレンジメント名 = SAP_COM_0316_000013
通信システム = 1EG_SYSTEM_000013
ステップ1 :アプリ 口ミュニケーションの取り決め」を開きます。
SAP S/4HANA Cloud Launchpadより：
SAP S/4HANA Cloudにログインしてください。
検索バーまたはアプリ検索機能をご利用ください。
検索する：
コミュニケーションの取り決め
アプリを開いてください。
Explanation:
このアプリは、SAP通信シナリオにおける通信設定を作成および維持するために使用されます。
この課題では明確にコミュニケーションの取り決めを作成することが求められているため、これが正しい出発点となります。
ステップ2：新しいコミュニケーション方法を作り始める
コミュニケーション設定アプリの内部：
クリック：
新しい
Explanation:
これにより、新しい通信設定を作成するためのウィザードが起動します。

ステップ3：通信シナリオを入力する
シナリオ欄に以下を入力してください。
SAP_COM_0316
確認するか、続行するかを選択してください。
Explanation:
これは、以下のSAP通信シナリオに必要なものです。
財務 - 売掛金銀行取引明細書の統合
配置構成はこの選択に基づいて生成されるため、正確なシナリオIDを使用することが非常に重要です。
ステップ4 :アレンジメント作成画面に進みます
シナリオを選択した後：
「作成」をクリック
または
「続行」をクリックしてください。
画面の動作によって異なります。
Explanation:
これにより、アレンジメント名や通信システムなどの詳細設定を行う画面が開きます。
ステップ5 :アレンジメント名を入力します
「アレンジメント名」フィールドに以下を入力します。
SAP_COM_0316_######
例
接尾辞が000013の場合は、以下を入力してください。
SAP_COM_0316_000013
Explanation:
これは通信方式の技術的／ビジネス上の名称であり、タスクと完全に一致していなければなりません。
ステップ6：以前に作成した通信システムを選択します。
通信システム分野において：
値のヘルプまたは選択リストを開きます。
前のタスクで作成した通信システムを選択してください。
1EG_SYSTEM_######
例
接尾辞が000013の場合は、以下を選択してください。
1EG_SYSTEM_000013
Explanation:
このステップでは、通信設定を以下の内容を含む通信システムにリンクします。
技術的なホスト定義、
通信ユーザーの割り当て、
そして、受信通信の設定。
このリンクがなければ、この仕組みは不完全です。
ステップ7：自動的に生成された通信の詳細を確認する
通信システムを選択すると、SAPは次のような統合関連のセクションを自動的に入力する場合があります。

受信通信ユーザー
認証方法
サービスエンドポイント
サービスURL
Explanation:
これらの値は通常、選択された通信シナリオと通信システムから自動的に導出されます。
タスクで明示的に要求されない限り、通常は手動で変更する必要はありません。
ステップ8：必要な値をすべて確認する
保存する前に、以下を確認してください。
シナリオ = SAP_COM_0316
アレンジメント名 = SAP_COM_0316_######
通信システム = 1EG_SYSTEM_######
Explanation:
この最終確認により、入力ミスやシステム設定の誤りがないことを確認します。
ステップ9 :コミュニケーションの取り決めを保存する
クリック：
保存
Explanation:
これで通信体制の構築が完了します。
保存しないと設定は存在せず、統合設定は不完全です。
ステップ10：保存した配置を確認する
保存後、配置が以下のように表示されていることを確認してください。
アレンジメント名 = SAP_COM_0316_######
通信システム = 1EG_SYSTEM_######
シナリオ = SAP_COM_0316
シナリオの説明：
財務 - 売掛金銀行取引明細書の統合
Explanation:
これは、通信設定が正常に作成され、銀行統合シナリオにおいて後で使用する準備が整ったことを確認するものです。
期待される結果
このタスクが正常に完了すると：
通信手段が存在する、
これはシナリオSAP_COM_0316を使用します。
正しい配置名が付いています。
これは、以前に作成された通信システムとリンクしています。
配置は正常に保存されました。

最新問題: **7**
シミュレーション
統合シナリオを設定する

ビジネスシナリオ
あなたは、ファイルインターフェース（1EG）を使用した銀行連携の設定を担当します。実際の導入時には、まずSAP Signavio Process Navigatorからビジネスプロセスのセットアップ手順書をダウンロードする必要があります。この実技試験では、必要な情報はすべて提供されるため、セットアップ手順書をダウンロードする必要はありません。
前提条件
注記：
以下の課題では、###### を必ずグループ番号の下6桁に置き換えてください。
注記：
タスクに記載されている名前、値、スペースを、正確に使用してください。スペースや数字を一つでも忘れると、タスクの検証が失敗し、不正解と判定されます。
あなたのタスク
以下の情報を使用してコミュニケーションユーザーを作成し、保存してください。

Parameter	Value
User Name	1EG_COMM_USER_######
Description	1EG Communication User
Password	Have the system propose a password

Answer:
すべての解決策については、以下の説明を参照してください。
Explanation:
客観的
このタスクの目的は、ファイルインターフェースを使用した銀行統合（1EG）の統合シナリオ用に新しい通信ユーザーを作成することです。
この通信ユーザーは、後ほど統合設定、特に通信システムと通信構成を定義する際に使用されます。
ビジネスシナリオの説明
このシナリオでは、以下の統合を設定します。
ファイルインターフェースによる銀行連携（1EG）
SAP S/4HANA Cloudでは、システム間の技術的な通信は通常、以下の方法で行われます。
コミュニケーションユーザー
通信システム
コミュニケーションの取り決め
この作業はその一連の作業における最初のステップです。
通信ユーザーは、システムが統合関連の認証に使用する技術ユーザーとして機能します。
重要な注意事項
の部分は、必ずご自身のグループ番号の下6桁に置き換えてください。
課題に示されている値を正確に使用してください。
スペース、アンダースコア、大文字 小文字の区別は変更しないでください。
タスクに以下の指示がある場合は、パスワードを手動で入力しないでください。

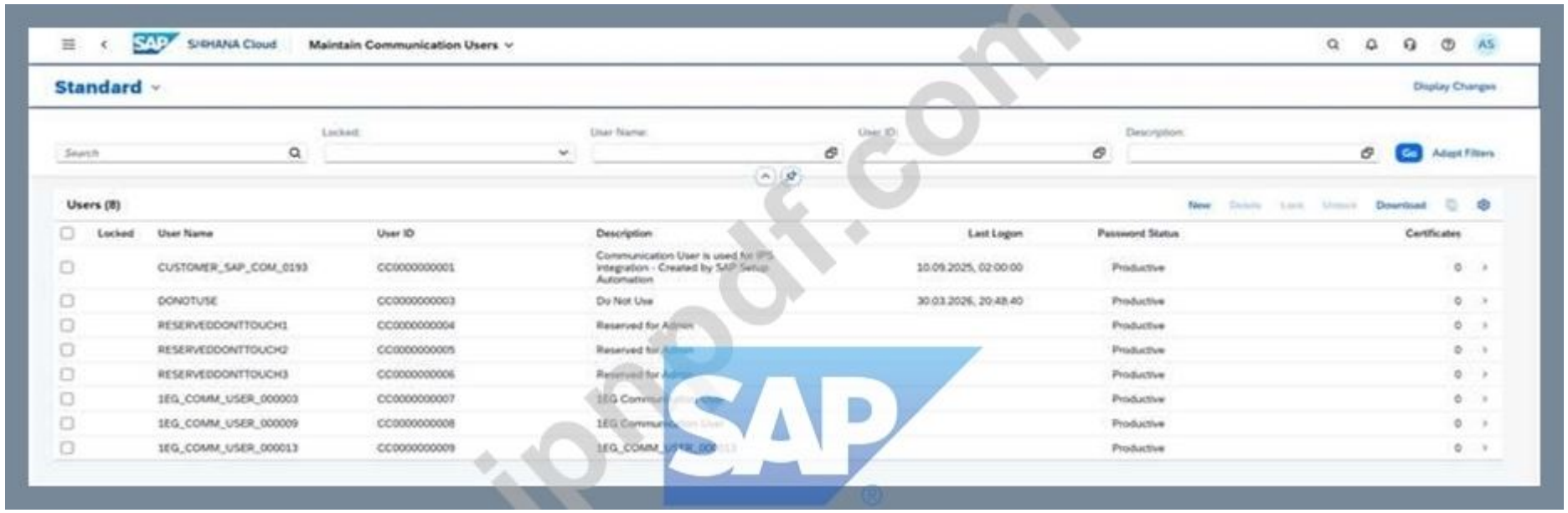
システムにパスワードを提案させる
必須値
タスク画像に示されている値をそのまま使用してください。

Parameter	Value
User Name	1EG_COMM_USER_######
Description	1EG Communication User
Password	Have the system propose a password

例
接尾辞が000013の場合、値は次のようになります。
ユーザー名 = 1EG_COMM_USER_000013
説明 = 1EG通信ユーザー
ステップ1 :アプリ 口ミュニケーションユーザー」を開きます。
SAP S/4HANA Cloud Launchpadより：
SAP S/4HANA Cloudにログインしてください。
検索バーまたはアプリ検索機能をご利用ください。
検索する：
コミュニケーションユーザー
または
ユーザーとのコミュニケーションを維持する
アプリを開いてください。
Explanation:
このアプリは、統合シナリオにおける技術コミュニケーションユーザーを作成および管理するために使用されます。
これは正しい出発点です。なぜなら、タスクにはコミュニケーションユーザーを作成するように明示的に指示されているからです。
ステップ2：新しいコミュニケーションユーザーの作成を開始する
コミュニケーションユーザーアプリ内：
クリック：
新しい
Explanation:
これにより、新しい通信ユーザーレコードの作成が開始されます。
ステップ3 :ユーザー名を入力してください
新しい通信ユーザー画面で、以下を入力してください。
ユーザー名 = 1EG_COMM_USER_######
例
接尾辞が000013の場合は、以下を入力してください。
1EG_COMM_USER_000013
Explanation:

これは通信利用者の技術的な識別子です。
それは、そのタスクに完全に合致していなければならない。
ステップ4：説明を入力する
説明欄に、正確に以下を入力してください。
1EGコミュニケーションユーザー
Explanation:
これは、技術統合ユーザーの機能説明です。
検証エラーを避けるため、タスクに記載されているとおりに正確に入力してください。
ステップ5 :システムにパスワードを提案させる
パスワードのセクションで：
パスワードを手動で入力しないでください。
クリック：
パスワードを提案する
Explanation:
タスクには明確にこう書かれています。
パスワード = システムにパスワードを提案させる
したがって、正しい対処法は、手動で独自のパスワードを入力するのではなく、SAPが生成したパスワードを使用することです。
ステップ6：生成されたパスワードを確認する
「パスワードを提案」をクリックした後：
システムはパスワードを自動的に生成します。
システムにパスワードが表示された場合は、後の統合手順で必要になる可能性があるのでメモしておいてください。
Explanation:
場合によっては、提案されたパスワードが、通信設定やドキュメント作成の際に必要になることがあります。
シミュレーションの後半で必要にならなかったとしても、これは正しい手順が踏まれたことを確認するものです。
ステップ7：通信ユーザーを保存する
クリック：
保存
Explanation:
これで通信ユーザーの作成が完了しました。
保存しないと、技術ユーザーは存在せず、後続の統合手順が失敗します。
ステップ8：通信ユーザーを確認する
保存後、通信ユーザーがリストに存在し、正しい値が表示されていることを確認してください。
ユーザー名 = 1EG_COMM_USER_######
説明 = 1EG通信ユーザー
Explanation:
これにより、タスクが完了し、ユーザーが次の統合設定タスクで使用できる状態になったことが確認できます。
期待される結果
このタスクが正常に完了すると：
通信ユーザーが存在する、
ユーザー名は必要な命名規則に一致しています。

説明は正しいです。
パスワードはシステムによって提案されました。
ユーザー情報は正常に保存されました。



Valid C-S4CPB-2602 Dumps shared by GoShiken.com for Helping Passing C-S4CPB-2602 Exam! GoShiken.com now offer the **newest C-S4CPB-2602 exam dumps**, the GoShiken.com C-S4CPB-2602 exam **questions have been updated** and **answers have been corrected** get the **newest** GoShiken.com C-S4CPB-2602 dumps with Test Engine here: https://www.goshiken.com/SAP/C-S4CPB-2602-mondaishu.html (**20** Q&As Dumps, **30%OFF** **Special Discount:** **Freepdfdumps**)